



※本稿は『三刀屋高校だより 蒼雲 第144号』（令和6年11月12日発行）を加筆修正したものです。

■「私には夢がある」—I Have a Dream.—

猛暑、酷暑と表現された夏は過ぎましたが、今年最大の満月「スーパームーン」翌日（10月17日）にもまだ夏日を記録するなど、なかなか秋らしさを実感しにくい天候が続きました。それでも、次第に冬をも意識させられるような季節となってきました。

4月に開校100周年記念式典を開催した今年度も半分が終わりました。5月以降、高校総体や総文祭といった部活動の大会、球技大会や学園祭、遠足や研修旅行など多くの学校行事が行われ、その都度生徒の皆さん一人一人の充実感や満足感にあふれた表情や姿を目にすることができました。今年度、重点目標の一つに「自己表現のできる環境づくり」を掲げ、部活動の活性化、生徒会や生徒発の活動の推進など生徒主体の活動の活性化、活躍の機会や場の創出と積極的発信をその具体策としてあげています。学校ホームページや学校だより『蒼雲』では、生き生きとした活動の様子や成果を紹介しています。ご覧いただき、生徒の皆さん一人一人の“自己表現”の一端を感じとっていただければと思います。

さて、タイトルに示した「私には夢がある」I Have a Dream.とは、1963年8月28日にアメリカ合衆国の首都ワシントンD.C.でマーティン・ルーサー・キング・ジュニア博士が行った演説に繰り返し登場するフレーズです。キング博士の“夢”とは、あらゆる民族あらゆる出身のすべての人々に対する自由と民主主義の実現でした。彼は平等な公民権を保障する法律の制定を求めて奔走し、1964年にはこの功績が認められノーベル平和賞を受賞しています。

ひるがえって、私自身はこれまで“夢”について語ってきたであろうか？キング博士のような壮大な“夢”を語ることはできないが、自分の中に“夢”を抱いて生きてきたであろうか？そう自問自答しました。契機となったのは、ある研修でのアイスブレイクでした。研修講師の方から「今日の研修を始める前にお互いに自己紹介をしてもらいます。その際、『私には夢がある』と最初に言い、ご自身の“夢”を交えながらお話してください。」と言われました。その時は、文字どおり“夢”のような話でお茶を濁した感じでしたが、研修後に改めて思い返してみました。思い起こせば、最初に“夢”について語ったのは保育所の育了式の時だったと思います。少人数の小さい保育所でしたが、保護者の前で一人一人が「大きくなったら」と題して画用紙に絵を描き、将来の“夢”について発表しました。私は、「大きくなったら土木作業員*になりたい！」と言ったことを鮮明に覚えています。父親が建設関係の仕事に携わっており、子どもなりに父親を尊敬していたのだと思います。成長するにつれ就きたい職業は変わり、中学・高校の頃には教職に就くことを目標として過ごしていました。しかし「教職に就くこと」自体を“夢”と捉えてはいなかったように思います。「こういう教師になりたい」とか「教師になってこうしたい」という思いはありましたから、むしろこちらの方が“夢”に近かったと言えるかもしれません。“夢”とは単に目指す職業に就くことではなく「将来実現させたいと思っていること」とであると言えるのではないのでしょうか。就きたい職業を選択した上で「こんな〇〇を目指したい」「〇〇になってこういう形で社会に貢献したい」とか、逆に「こういう形で社会に貢献したいから〇〇に就きたい」といった

考え方です。さらに言えば「実現させたい」というのは、実は自分自身のことであり、“夢”とはつまり「自己実現を目指すこと」と置き換えることもできるでしょう。

進学型総合学科の三刀屋高校では、確かな学力の育成とキャリア教育の充実を両輪として教育活動を進めています。総合学科ならではの科目「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」では、自己理解や地域理解、あるいは職業探究や学問探究など生徒の皆さん一人一人の自己実現につながるようなプログラムを用意しています。生徒の皆さん一人一人が「なりたい自分になるために」「自分はこうありたい」という“夢”を語れる人になれるよう私たち教職員も全力で支援していきたいと思っています。

さて「私には夢がある」、皆さんはこのフレーズの後にどんな言葉を紡いでいきますか？

* 当時は別の表現をしましたが、今回はこの表現にしています。

